ボーイスカウト京都38団少年隊 年長隊
機関紙第　号 "題は未決定の新聞"

ボーイスカウト京都38団新聞委員会
年6回発行　非売品

論説　私のスカウト観

副長　末吉平克

私は本当のスカウトではありません。私にはスカウティングが必要なのです。

本当のスカウトにはスカウティングは不必要なのです。スカウティングとはスカウトになろうとするやり方、なろうとする姿を指しているのだと思います。ちかい、おきてをちょっと見ただけでは、それをすべて実践出来る人は神様か仏様のように思われます。しかし又考え方によっては、非常に簡単で、だれでも出来ることなのです。スカウトは何もキャンプへ行ったり、ハンゴウの炊き方をおぼえたり訓練で、手旗、モールス、ロープ結びなどをおぼえたりするだけで進級するものではないのです。考査の項目にちかい、おきての実践と言うのがありますが、これこそスカウトだと証明出来る項目なのです。一度サインしてもらっても自分で実践しなければ本当の二級、一級スカウと言えるでしょうか。今の私にも、ちかい、おきての実践をすることは、並大抵のことではありません。しかし同じスカウトでも二つの歩き方があると思うのです。一つは本当のスカウトなんてなれっこないと遠ざかる方、もう一方は本当のスカウトになるのは難しいが、でもなろうと努力する歩き方です。今は実践出来ていなくても、実践しようと努力している、スカウトの私、あなたがたのこの状態を大切にしたいと思うのです。みなさん本当のスカウトに向って、歩もうではありませんか。

十月十三日(木)

班編成・上進式・行なわれる

新しいスタートを向かえて、去る一日と十五日にそれぞれ、班編成式、カブスカウト上進式、宣誓式が挙行された。

十月一日(土)午後七時半より団本部においてかがり火を囲んで行なわれた。はじめに新しい班のメンバーが発表され、ここに3年ぶりに3班になった。復活したのは一番歴史の浅いツバメ班で松尾君が班長に就任した。又新しい次長に仙波君山副君がそれぞれ就任した。

それから班旗授与にひきつづいて、新旧両上班の交代式があった。旧上班の水野君に変って、サンショは小粒でもピリッとからいと言う大薮君が新上班になった。また隊付には堀池君と水野(弟)君が任命された。このあと、ゲームを楽しんで、午後十時ごろ解散した。

新入隊員の顔ぶれ

十五日(土)には、団創立以来の最多宣誓君をかかえた入隊式が行なわれた。午後七時、団本部広場で、細川君の点火で始まり、ガブからの上進者6名、仮入隊者5名のちかいの式があった。このように、一度に11名の新しいスカウトをむかい入れたことは、[illegible]始まって以来のことで、今や若い力に満ちあふれている。全隊員数は24名になり、今後の発展が大いに期待されている。このあと、隊集会が開かれ、楽しいひと時をすごした。午後九時ごろ解散した。

ワシ班　小林君、本多君、杉原君、内藤君

コイ班　宮西君、石田君、利根川君

ツバメ班　鶴田君、鈴木君、小松君、広瀬君

では、ここで、新入隊の杉原君に感想を聞いたので紹介します。

ワシ班　杉原治

僕がボーイスカウトに、入隊したいとお母さんに言いました。お母さんは、「ボーイスカ※ウトは、しんどいそうだけど身体がよわいのにつづくかと、言われたが、一生けんめいにボーイスカウトにはいってもいいや」と、言いました。僕の近所に、中学[illegible]年の中村君がおられるので、お母さんにたのんでもらいました。中村君の班に仮入隊させてもらいました。はじめてのハイキングで大文字山方面へ行きました。行く道で合図を見ながら進んでいきました。大文字山のてっぺんでゲームをし、かえり道ででんれいのけいこをしながら、ボーイスカウトは、たのしいものだなあと思いました。

8月	7月	6月	5月	4月	3月	2月	1967年 1月	12月	1966年 11月	月
野営	準備	技術	観察	進級	通信	雪中ハイク	工作	救急	行脚(ハイキング)	課題
T・C			T・H		T・C	T・H			T・H	主な行事

年間プロ決定

昭和41年9月から昭和42年8月までの年間プロが去る8月30日に決定した。れを目標にしてスカウティングにはげもう!

Printed by M. Mizuno

ぼくらの活動

新班編成以後はやくも一ケ月になりました。そこで、新しく幹部になったスカウトたちに感想を聞いてみました。

『上級班長に就任して』

上級班長 大藪俊一

[illegible]

『燕班々長になって』

ツバメ班長 松尾佳則

ぼくはボーイスカウトになってからまだ一年と少ししかたたないのに班長になりました。まだ人を指導する程じゃないのにと思っています。班でもこれからは前のようにはいかない。自分の手で何とかやっていかねばならないのです。ぼくは班員とそく難関にぶつかってい[illegible]もう班長なのだから[illegible]の世話をせねばな[illegible]

[illegible]のつながりを密接にすること、そして[illegible]おきてを守ること等です。

『次長になった感想』

ワシ班 仙波正男

僕は、さんど次長になった。僕ははじめはあまりなりたくなかった。班編成の時次長仙波君と聞いたときはびっくりした。次長になったかぎりはまじめになってもっともっとがんばら

ねばならない。次長は班で二番目にえらいのだ[illegible]

感激した大営火！

才4回日本ジャンボリーに参加した中村君は次のように感想を述ています。

ワシ班 中村三之助

僕にとって初めてのジャンボリーだった。8月4日の夜にバスで目的地日本原へと出発した。日の朝6時頃に着いた。大変長い旅だったが寝ている時間が多かったためそう長く感じなかった。僕がジャンボリーにて感激且驚いた事は

何と言っても、日本全国のスカウトの団数にはおどろいた。それは隊旗によって知られた。次にジャンボリーの会場の広大さにもおどろいた。会場にはバスが通っているほどだ。「大営火」の時に地方別に演技をやった。時には感激をうけた。又苦しかった事は中央アリーナまで行く事が一番苦しかった。しかし六日間のジャンボリー生活はゆとりがあり楽しく愉快に送ってきたことと思う。この第4回日本ジャンボリーは深く印象に残る事だと思う。

備考 大会には、我団から13名のスカウトが参加した。思い出話やたのしい歌があるから班長から聞くように。

スカウトにきく(二)

趣味 ギターを弾くこと 水野隊長の巻

今回は隊長にある日の夜インタビューしてみました。

『お年は』皆と同じぐらい若い。

『趣味は』(1)ギター (2)山歩き (3)レコード鑑賞

『好きな山は』比良山です。

『一番好きなキャンプ料理』砂の入っていないめし

『好きなスカウトソング』特に、一日の終り。

『最後に、38団のスカウトに対する希望』皆さん方と心から話し合える友達になりたい。

どうも御苦労様でした。

僕のクラブ論

コイ班 野崎正和

僕はブラスバンドクラブに入っている。中学校のクラブ活動は活発で沢山の人がクラブに入っている。僕のクラブでは毎日練習がある時には日曜日までもそれでよく困まることがある。それは同じ日にクラブとボーイがある時である。クラブは趣味をのばすのによいしボーイは心身をきたえられるのに好ましいと僕は思う。どちらも僕にとっては大切である。クラブは毎日ありボーイは週一回ぐらいしかない。だから僕は出来るだけボーイの方に出て来た。しかし大事な練習、コンクールなどの時は休まねばならない。僕は前にどちらかひとつ止めようか？と考えたこともあった。けれども今までうまく両立してきたのだから、これからも両方を続けていきたいと思う。

備考. 野崎君はクラリネットを、中村君も同じクラブでホルンを吹いているそうです。

懸賞

「私」に名前をつけて下さい。 ○○○○○○○○

このたび我々38団の機関誌才2号が発刊されましたが、まだ名前がついていません。そこで、次の様に募集しますので、どしどし応募して下さい。

要項
・スカウトの新聞にふさわしい名前。
・各自自分で考えたもの。
・期限は12月20日までに、隊長もしくは新聞委員まで。

なお、採用の分には、隊長から記念品が出るそうです。

☆編集後記☆

このたび機関紙才2号の発行に当り、この新聞の歴史を顧みると、昭和37年10月に[illegible]お願いします。

新聞委員会 水野正己

次号予告

次号は12月に、ワシ班担当で発行の予定です。

Printed by M. Mizuno